

文化財 せんだい



No. 141

令和7年(2025年)7月発行
仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区上杉一丁目5-12
上杉分庁舎 10階
〒980-0011 Tel:022-214-8893
仙台市文化財課

仙台屈指の
古墳！

ほうりょうづか

法領塚古墳が仙台市指定文化財になりました

若林区にある聖ウルスラ学院の敷地北側にはケヤキの大木がそびえ立っているのをご存じでしょうか。このケヤキの根元に視線を移すと、高く土を盛り上げた丘があるのが分かります。この高まり、実は法領塚古墳と呼ばれる、今から約1400年前に造られた古墳で、令和7年2月17日に**仙台市の遺跡の中でも特に重要という評価**を受け、仙台市の史跡に指定されました。

古墳時代は3世紀中ごろ～7世紀初めの約400年間、リーダーなど身分の高い人の墓として古墳が造られた時代です。法領塚古墳のある若林区一本杉の周辺は、遠見塚古墳など仙台平野でも大型の古墳が造られ、古墳時代を通じて地域一帯の拠点とも呼べる場所でした。

法領塚古墳は古墳時代の終わり頃に造られた直径55mの円形の古墳(円墳)で、同時期に造られた古墳としては東北地方最大級の規模です。1mを超える巨大な石材も使用し造られた横穴式石室(埋葬するための部屋)の存在から、仙台平野を代表するリーダーのお墓だったのではないかと推測されます。**当時の墳丘と横穴式石室を今に残す仙台市内唯一の古墳であり、仙台が誇る遺跡のひとつです。**

なお、現地見学の際は学校法人聖ウルスラ学院(TEL286-5935)までお問い合わせください。(担当：妹尾)



平成22年発掘調査時の様子



石室の内部の様子

仙台藩刑場跡

泉区七北田の地下鉄八乙女駅の近くに「仙台藩刑場跡」という仙台藩ゆかりの場所があります。令和7年2月、本市はこの場所の寄附を受けました。刑場とは、江戸時代に、各藩が罪人を処刑した場所で、仙台藩では罪斬場とも呼ばれました。刑場は仙台北城下の琵琶首から米ケ袋へと移転したのち、元禄2年(1689)頃には城下の外れ、奥州街道沿いの七北田村へ移されました。

現在の仙台藩刑場跡は、江戸時代の刑場が所在した場所とは異なりますが、亡くなった人を弔うための供養塔や供養地蔵尊などの碑が集められ、往時を偲ばせます。

その中には、七北田村・市名坂村の人々が地蔵尊をつくり、念仏供養を行っていたことを推測させる碑も残されています。かつて刑場付近には、五代藩主伊達吉村の夫人・長松院の遺言により念仏堂も建てられ、死者の供養が行われていました。

死が身近にあった江戸時代。罪の有無に関わらず、亡くなった人を悼み供養した人々の思いも伝えていきたいものです。(担当：菅原)



現在の仙台藩刑場跡



刑場付近に建てられた念仏堂の様子
(「湯治撰」部分 仙台市博物館蔵)

現代によみがえった いはいえ 古の美

令和5年度に行った富沢遺跡第159次調査で、水田の水路と考えられる溝跡から、中世～江戸時代に作られたと考えられる漆器のお椀が出土しました。バラバラの状態で見つかり、漆が剥がれそうなほど良くない保存状態でした。

木製品は、水分を多く含む土の中では腐らずに残っています。しかし発掘調査で出土した木製品は、そのままの状態だと空気に触れて劣化し元の形が失われてしまいます。そのため、出土した後しばらくの間は専用の薬品を溶かした水に浸して保存していましたが、しかしこの方法では、水を定期的に変える必要があるなど手入れに手間がかかり、また、手にとってじっくり観察したり、展示したりすることが難しくなります。

それらのデメリットを解決すべく、今回行ったのが真空凍結乾燥法という保存処理方法です。インスタント味噌汁などフリーズドライ食品を作る際にも利用される方法で、真空凍結乾燥機の中で特殊な処理を行うことで、乾燥による収縮や亀裂など形の変化が少なくなり、安定して長期保存できるようになります。

このお椀についても、真空凍結保存処理と接合の作業を経て本来の姿が蘇りました。復元は長年埋まっていた影響で潰れた形となりましたが、装飾は全面に塗られた黒漆の上に赤漆で模様が描かれていてとても華やかです。自分の担当した調査で発見されたものということもあり、保存処理が終わり復元されたものを見た時の感動はひとしおでした。今後文化財展等で皆さんに見ていただく機会を提供できればと思っています。

(担当：吉田)



保存処理前



保存処理・接合後

文化財課職員が語る!

わたしと文化財

若手職員、早川さんと文化財の出会い

入庁5年目となる私と文化財との出会いは、小学生の時に祖母から見せてもらった1つの土器でした。

当時私は化石に熱中しており、海岸を歩いて石を割り、種類を聞きに博物館に持ち込むほどの化石少年でした。そんな時、遺跡で発掘調査のアルバイトをしていた祖母が、実際に土の中から出てきた土器を、社会の勉強にと見せてくれました。実際の教科書に出てくるような土器を、初めて目にして触った衝撃は今でも忘れられません。教科書を見て「自分の周りにはこんな土器、埋まっているわけがない!」と思っていたのですが、祖母の家の近くで出てきたという土器を見たことで、いわゆる「埋蔵文化財」で頭がいっぱいになってしまいました。いつか自分で遺跡をみつれたりする仕事を夢見て勉強を続け、今では専門知識を活かして遺跡とかかわる仕事をすることができています。

この仕事をしていて感じるのは、住宅街や山などにもたくさんの遺跡があり、埋蔵文化財は思っているより身近ということです。普段見慣れた住宅街の真ん中でも、調査をしてみると^{ふたてあなじゆうきょあて}竪穴住居跡などととも土器がたくさん埋まっています。市内の遺跡は、代表的なものは「仙台市の遺跡」というホームページで調べることができますので、ぜひご覧ください。



住居跡に残された土器

★公式X「文化財課 広報」はこちらから！



文化財に関する
最新情報発信中!!
ぜひご登録を♪

★調査区等の3Dモデルを作成しています♪



仙台中門石垣などの
3Dモデルを発信中!
ぜひ見てみて下さい♪

資源循環の杜へ



この広報誌は雑誌として
リサイクルできます